

地域再生とまちづくり

—各都市が目指すものは

ウイスキーの聖地

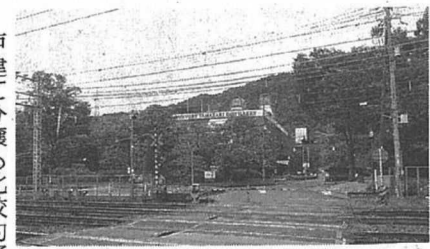
天下分け目の戦いで有名な天王山の麓を通過すると車窓からサントリー山崎蒸留所が見えます。創業者、鳥居真二郎が緑豊かな森林と独自の地形から発生する湿度の高い霧と土質で豊かな水に注目し、1923年に島本町の地に日本初のモルトウイスキー蒸留所の建設に着手。島本町は国産ウイスキーの聖地と言われるようになりました。

島本町は大阪府の北東部、京都府との府境に位置し、町面積16.81平方キロ。約7割を山岳丘陵地が占め、南西側の平たん地に市街地が形成されています。町内には1240年に創設された後鳥羽、土御門、順徳の3天皇を祀った水無瀬神宮があり、境内には全国名水百選に大阪府でただ一つ選ばれた「離宮の水」があります。

古くは西国街道と呼ばれた国道171号やJR東海道を長谷工がそれぞれ分譲マンションとして開発中です。最近では11年竣工のライオンズガーデン水無瀬グリニバー(総戸数556)の大規模マンション開発に続き、サントリー配送センターを阪急不動産が、関西電力グラントを長谷工がそれぞれ分譲マンションとして開発中です。

<第20回>

立地から大正時代にはサントリー蒸留所、紡績工場が建設され、戦後は日立金属、トッパンフォームズ、小野薬品、積水化学、関西電力などの工場、研究所が立地する工業・研究都市の側面を持った町として発展。08年3月にJR島本駅が開業した結果、その敷地が戸建て、マンションへと用途転換が進みました。



電車から見えるサントリー山崎蒸留所



08年3月に開業したJR島本駅

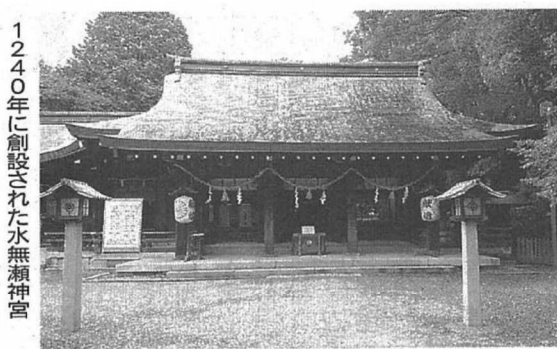
戸建て分譲も比較的好調で、30代から40代のファミリー層をターゲットとした30坪前後(中心価格帯3500万円〜4000万円程度)の戸建て住宅の供給が多く見られるようになりました。不動産価格はファミリー層の購入可能な価格帯のため、持ち家の建築着工数は堅調に推移しています。

大阪府島本町・美味しい名水と歴史の町

こうした中で16年3月、島本町では「人口ビジョン」と今後5年の施策方向を示した「まち・ひと・創生総合戦略」を策定しました。島本町は小さな自治体にもかかわらず、古からの歴史を伝承しながら、大阪や京都のベッドタウンとしての発展を推進し、これからも、地域産業の活力も感じられる町の実現に取り組んでいこうとしています。

人口、世帯数は増加

町の人口・世帯数は05年の2万9609人(世帯数1万1477)を底に16年5月現在で3万652人(世帯数1万2879)と増加傾向にあります。その結果、10年から再び出生数が増加し、女性の合計特殊出生率は1.44(10年)と、近隣都市と比較しても高い値になっています。



1240年に創設された水無瀬神宮



11年に竣工した「ライオンズガーデン水無瀬グリニバー」

JR駅で利便性向上 工場、研究所が住宅に

新たな動きとしては、サントリー研究センター跡地には私立大阪清陵高校・中学校が21年までに開校(移転)が決定したほか、JR島本駅土地地区画整理準備組合が9月に農地を集約し良好な営農環境を保全しつつ「住宅・商業・学研・医療」エリア導入の考え方を示したまちづくり(施行予定面積13㌔)の概要書を公表しています。

社、不動産鑑定士・太田雅美